公民科倫理　学習指導案

指導教員
指導者

1.日時　　令和4年6月9日（木）第1校時 8:40~9:20（40分）

2.場所　　133教室

3.対象　　第[redacted]学年[redacted]組 選択24名

4.単元名　第2章 人間としての自覚　第5節 中国思想

5.単元について

本単元では中国思想について取り扱う。春秋戦国時代とよばれる戦乱の時代において、なぜ諸子百家とよばれる思想家が登場し、なぜ今もその思想が受け継がれているのか考えていきたい。また、そのなかでどのような思想が発展し、それが今どのように私たちの生活に影響しているかを考察することで、中国思想に対する深い理解につなげたいと考える。生徒自身が自分の生活・人生について前向きに考え、また他者との関係をこの機会に捉えなおし、よりよく生きることができるよう指導したい。また、最終的にどの思想に共感することができたか、またなぜ共感できるのかを自らの力で熟考することができるよう授業を進めていきたい。

(1)教材観

中国思想は我が国にも大きな影響を及ぼした思想の一つだが、日常生活においてそれが今の私たちの生活にどのようにつながっているかを考える機会は少ないように感じる。また思想家が多く、その教えも幅広いことが中国思想の特徴である。意識的に自覚していなくてもその思想・考えが日本人の習慣に知らず知らず表れていることは多い。そこで本単元を通して中国思想が中国をはじめ東アジアの人々にどのような影響を与え、その後どのような展開を経てきたのかを歴史と共に紐解き、中国思想に対する深い理解、自分の人生の在り方を見つめ直す機会としたい。

(2)生徒観

全体的に集中して授業を受けている生徒が多く、私語も少ない。授業中の発問に対しても周りと話し合い、前向きに答えようとする様子が見受けられる。ただ授業の後半になると集中力が低下してしまう生徒も少人数だが在籍している。そのため発問により生徒自身が考える機会を設け授業の理解を深めるとともに生徒が主体的に取り組める環境づくりを心がけたい。またグループワークによるアクティブな活動を取り入れることで知識理解はもちろん、思考力の育成も図っていきたい。そして他の生徒と協力し、「思考力・判断力・表現

力」を促し既有の知識を授業内容と結び付け、思想に対する生徒たちの考えを構築できるよう授業を展開し、多様な価値観・柔軟な思考を醸成したい。

6.単元目標

・中国思想が春秋戦国時代にいかに形成されてきたのかを理解することができる。
・歴史的思想家と思想内容を理解することができる。
・中国思想が人々に与えた影響について理解することができる。

【知識・技能】

・儒家・道家・法家・墨家を比較し、その違いについて考察することができる。
・中国思想と現代の私たちの生活のつながりを考察することができる。

【思考・判断・表現】

・中国思想の伝来とその後の展開について興味を持ち、意欲的に取り組むことができる。
・多様な思想を理解し、それに対する自身の考えを持つことができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

7.単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・中国思想が春秋戦国時代にいかに形成されてきたのかを理解することができる。 ・歴史的思想家と思想内容を理解することができる。 中国思想が人々に与えた影響について理解することができる。	・儒家・道家・法家・墨家を比較し、その違いについて考察することができる。 ・中国思想と現代の私たちの生活のつながりを考察することができる。	・中国思想の伝来とその後の展開について興味を持ち、意欲的に取り組むことができる。 ・多様な思想を理解し、それに対する自身の考えを持つことができる。

8.単元の指導計画（全３時間）

時	指導内容	学習活動	評価の観点
1	「道」の自覚―孔子	・春秋戦国時代に諸子百家とよばれる思想家が登場し、孔子はその中でも儒家の祖であったことを理解する。 ・孔子が示した「道」の内容を理解する。 ・孔子の言葉から当時、理想とされた政治や考えに興味を持つ。 ・孔子の思想が自身の生活にどう影響し	知識・技能 主体的に学習に取り組む態度

		ているか考える。	
2	儒家思想の展開	・孟子・荀子が孔子の考えを引き継ぎどのような思想を展開したのか理解する。 ・性善説・性悪説を比較し、それぞれの特徴を考察する。 ・韓非子が示した「法治主義」と墨子が示した「礼知主義」を比較しその違いに気付く。 ・儒家思想が現代の社会とどのようにつながっているのかを理解する。	知識・技能 思考・判断・表現
3	老荘思想（本時）	・老子・荘子の思想内容を理解する。 ・これまでに学んできた儒家と今回学んだ道家、それぞれの特徴や違いを理解する。 ・中国思想全体を振り返り、自身がどの思想に共感し、なぜそう思うか考える。	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度

9.本時の目標

・老荘思想が持つ性格を理解し、それまでの思想との違いに気付くことができる。
・歴史的思想家と思想内容を理解することができる。
・老荘思想が人々に与えた影響について理解することができる。

【知識・技能】

・儒家と道家の内容を比較し、その違いについて考察することができる。
・老荘思想と現代の私たちの生活のつながりを考察することができる。

【思考・判断・表現】

・老荘思想の伝来とその後の展開について興味を持ち、意欲的に取り組むことができる。
・老荘思想含む中国思想を理解しそれに対する自身の考えを持つことができる

【主体的に学習に取り組む態度】

10.本時の展開

時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入【5分】	今回の単元・授業内容の説明 老子がいう「道（タオ）」について	本時では中国思想の中でも道家にあたる老荘思想について学ぶことを確認する。 「万物は、道から生じて道に帰る」を雨を例に説明する。	生徒の様子を確認しながら集中して話を聞くよう語りかける。 プリントを配布する。

展開【32分】 展開①(5分)	道家について 老子について 老子が示した道について 無為自然について	前回までは儒家の思想家を学んできたが今回学ぶ思想家は道家に分類されることを説明する。 老子の思想を簡単に説明するために孔子を取り上げる。その際に老子の「大道廃れて仁義あり」という言葉も紹介する。 老子にとっての道とその考え、目指した姿を説明する。 老子が示した「無為」と「自然」の状態とはどのようなものであったかを説明する。	儒家と道家が区分された図を作成し、パワーポイントで生徒に提示する。 老子の写真を示しながら説明する。 ここから生徒のプリント記入が始まるためクラス全体を見渡し、生徒の作業状況を把握する。
展開②(5分)	柔弱謙下・無欲恬淡について 小国寡民について	「柔弱」は弱々しくしなやかな様子であり「謙下」はへりくだった意味を持つことと、「恬淡」が名誉や利益に執着しないことを表していることからこの言葉と老子のどのような思想がつながるか説明する。 「寡」が「少ない」という意味を持つことを説明し小国寡民への説明につなげる。	「謙」が「譲」など似た漢字と間違えやすいため注意するよう補足する。漢字と思想内容を結び付けた説明を行う。
展開③(5分)	荘子について 老荘思想について	荘子と老子のつながりを説明し、老子の思想を踏まえて荘子はどのような考えを持っていたか説明する。 「道」を中心に説いているため道家思想ともよばれることを説明する。	「寡」の漢字が難しいため書き間違いが無いよう注意することを呼びかける。 荘子と老子のつながりを示した図をパワーポイントで提示す

			る。
展開④(5分)	万物斉同について 真人について 心斎坐忘・逍遥遊について	漢字から意味を紐解き、荘子がどのような考えを持った人物であったかを説明する。 荘子が目指すべき姿とした真人とその内容について説明する。 心斎坐忘・逍遥遊が示す意味と真人へのつながりを説明する。	荘子と老子の考えが似ていることから「老荘思想」と言われることも補足説明として取り入れる。 真人は教科書にもあるように至人ともいうことについて触れる。
展開⑤(12分)	荘子故蝶について 中国思想に対する考えの構築と共有	荘子故蝶の夢について教科書を見ながら簡単に説明し、荘子の考えにつなげる。 今回の授業を含め中国思想全体を振り返り自身がどの思想に共感し、なぜそう思うかを考え、それらを表現するためにグループワークを行う。他の生徒と意見交換をし、最後に全体で共有する。	「斎」が「斉」に似ているため間違えないようにすることと、全体的に書き慣れない漢字なので生徒が書き終わっているか注視しながら進める。 教科書のページ数を示しながら説明する。 ４人前後でグループワークをするよう指示する。
まとめ【3分】	振り返り	老荘思想を中心に中国思想を学んできたことで、感じたこと・考えたことを振り返る。	グループワークを終えていることを確認し生徒に語りかける。

１１.参考文献

矢内光一『高校倫理　新訂版』実教出版（2022年）

浜島晃『最新図説　倫理』浜島書店（2021 年）